

※ 座談会第2部のテーマについて、江苏南京国家农业高新技术产业示范区から、以下のような詳細説明がありました。

<座談会第2部 詳細>

テーマ: 日本企業との連携について

-特にブルーベリーなどの農産物の高付加価値化、スマート農業機械分野について-

江苏南京国家农业高新技术产业示范区(以下「南京国家農高区」)は、南京市溧水区に所在する「国家農業ハイテク産業モデル区域(中国全土に3つある区域の1つ)」で、「グリーンスマート農業」を提唱し、バイオ農業、農産物加工、農業スマート装備製造、農業科学技術サービス業、未来食品産業の「1+3+1」産業システムの構築に力を入れています。これらの産業システム構築のために産学官の交流や協力を望んでいます。

ブルーベリーの発祥は、南京国家農高区がある白馬鎮にあり、現在、南京国家農高区のブルーベリー栽培面積はすでに万ムー(面積単位)に達し、区内の企業はブルーベリーを原料とする飲料、健康食品及び酒等の加工品を開発し、ブルーベリーの高付加価値化に取り組んでいます。先進的な食品加工技術を有する日本企業と提携して、ブルーベリーの新製品・新プロセスを開発することで、ブルーベリーの用途・付加価値をさらに高めていきたいと思っています。また、ブルーベリー以外にもブラックベリーやその他農産物加工品について、日本企業との交流・協力についても検討していきたいと思っています。

また、南京国家農高区は AI や IoT 技術等を活用したスマート農業にも取り組んでいます。スマート農業における重要な要素の1つである農業機械は、収量の増加、省力化に大きく寄与します。農業機械分野における高い技術を有する日本企業と連携し、スマート農業で利活用できる農業機械の開発、製造を進めていきたいと考えています。

座談会第2部では、特にブルーベリーなどの農産物の高付加価値化とスマート農業機械の分野について、第1部でご紹介いただく参加企業各社の有する技術を活用した南京国家農高区との具体的な連携の可能性についてブレインストーミングとして自由な意見交換を実施したいと考えています。